

(別紙4) (西暦) 2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871100160		
法人名	株式会社 ほーむけあいしやま		
事業所名	グループホーム遙遙		
所在地	茨城県常総市羽生町1026-2		
自己評価作成日	2021年7月4日	評価結果市町村受理日	2021年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=0871100160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりのために」を基本理念に利用者の持っている力を引き出し生き生きとした日常生活を送れるように支援しています。
 コロナウイルスの為に地域との交流はストップしていますが、施設の中でできる行事等を行い楽しく生活できるように心掛けています
 医療施設と連携を密にとり、利用者・家族・職員と安心した介護が提供できる体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部から少し奥まった自然豊かな地区に建つ事業所である。隣の幼稚園児たちの元気で賑やかな声が聞こえてくる。水害での被災を経験した職員が多く勤務していることから防災意識が高い。事業所移転後、広域避難場所への避難をした際には、管理者が職員に利用者の割り振りをし、少人数の利用者を担当することで責任をもって速やかに避難させることができた。被災した経験が細かな配慮を生んだとえる。職員が認知症を理解して利用者に接し、支援している様子が伝わってくる。利用者は笑顔で挨拶をしてくれ、穏やかに過ごされていた。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりのために」を基本理念に掲示し、統一したケアをするように取組んでいる。	理念や目標等、会議で再確認し、話し合いをする。最近の目標は『コロナを持ち込ませない』が中心で、その他に、熱中症対策としての室温管理なども出され、職員は理念と目標を理解し、日々の支援に当たっている。職員からは、認知症という病気ではなく、認知症の症状が出ているだけという理解のもと、「ひとりのために」を大切にして、チームで対応しているとの話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 現在はコロナの為に地域の方と散歩であいさつを交わす程度になってます	コロナ禍で交流は難しく、散歩時に挨拶を交わしたり、幼稚園児を見守る程度であるのが現状。近くの農業用水を自治会が管理しており、声をかけてくれるなど、地域住民の方々の温かみを実感している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望の有無に関わらず相談のあった時には介護保険の利用方法・関連機関への連絡の取り方等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催しているが現在はコロナウイルス蔓延防止のため、施設で報告書を作成して、家族・市・民生委員・社会福祉協議会に送付している。	昨年から文書での会議となっており、事業報告、行事予定、入退所状況、コロナ関連、予防接種状況などを報告している。特に意見は寄せられていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連絡はFAXのやり取りが多いが、消毒・マスクなどの配布などがあります。生活保護の利用者がいるため、社会福祉課とも連携をしている。	行政からはFAXや電話で連絡があり、良好な関係ができています。100歳の利用者があり、市長が来所して国・県・市・社協からのお祝い品が贈られ、総理大臣からのお祝い状が居室に飾られていた。生活保護受給者の利用があり、担当課や社協との連携も密に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は開所以来していない 身体拘束委員会を設置して3か月に1回委員会を開催している。 身体拘束をしないケアについて常に事業所会議等で話し合いをしている。	身体拘束委員会は書面で開催することもある。勉強会を実施しており、拘束についてもチェックリストを活用して研修している。以前、気が付かないうちに外出されてしまった方がおり、工事の方に保護されたことがある。現在、外出傾向の方はいるが、拘束が必要な方はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の事業所会議時に虐待防止について意見交換をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立者支援を2名利用している。コロナ禍の為に、面会は玄関先で数分ですが職員も立ち会って現状の報告をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は充分説明をするとともに、説明時は具体的な例を上げたりしながら分かりやすいように説明をしている。契約後も分からない時はその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、コロナ禍の為に面会の制限もあり、電話等で意見を聞いている。	家族には2ヶ月に1回『遙遙便り』に個別メッセージを記入して送り、様子を知らせている。面会は制限しているが、玄関先等で短時間会うことができる。以前は体調や転倒を心配する電話があったが、最近はほとんどない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見は管理者が聞き、管理者会議等で提案している。事業所会議に代表も参加して、直接意見を言える間柄である。	毎月会議を開催しており、あまり発言がない方にも機会を設けて様子を聞いている。年1回キャリアパスの自己評価、面接を行っており、その中でも意見をよく聞いている。水害を経験した職員からは、防災への気遣いや意見が寄せられる。勤務年数が長い職員が多く、20年勤続の表彰に近い職員がいる。完食する利用者が実は丸呑みしていたことがわかり、食事の様子や排泄状況を観察してミキサー食に変えた例がある。職員からは、働きやすい職場で、良いチームプレーで支援ができていたとの話があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得した時にはお祝い金等が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では、新人・中堅・管理者研修がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の集まり等があれば参加するがコロナ禍で停止中。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から本人とコミュニケーションを密にとり、信頼関係を構築できるように配慮している。 入居前には、必ず事前面接をして入所時に安心した介助ができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安な事や困っていることなどを聴くように努めている。面会時や電話等で連絡を密にして信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前には必ず事前面接をして情報収集を行いどのようなサービスが必要かカンファレンスをする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人について理解したうえで、家事手伝いを一緒にやり一つ屋根の下で暮らしている雰囲気をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を面会時・電話時・便りで報告している。ご家族からも情報を聴いたり意見を聞きながら情報を共有して本人を支えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会が定期的に行われているが、コロナの為制限されている。 電話等の取次ぎなどを行っている。	面会の制限があり、電話でつなぐ支援を行っている。馴染みの床屋に出かけていたが、最近のコロナ情勢で訪問美容にしている。ホームで購読している新聞を回覧しており、じっくりと読んでいる方もいる。チラシを見ながら食事の話に発展することもある。家族介助で歯科医受診をする際に、お墓参りを予定している方がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけホールで生活できるような環境づくりをしている。また利用者同士のトラブル時は席の移動や居室の移動、ユニットの移動などで対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡等があった時には気軽に相談できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント・生活歴・職歴・日々の会話等からの情報を共有し、その人らしい生活スタイルの提供に努めている。 困難な場合でも、以前の気持ちなどからくみ取れるようにしている。	認知症状がひどく、暴言を吐いて利用者同士がケンカになったこともあったが、今はない。看取り期の方には、ベッドをジャッキアップして、窓から外を見られるようにして声かけをしたり、音楽を流したり、思いをくみ取った働きかけをしている。認知症状は個人ごとに違うので、その方のその状況に応じた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握して、その情報を職員全員が共有することで、その人らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・日誌等の様々な記録や職員同士の情報交換により一人一人の現状について把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが、利用者や家族からの意見を基にプランを作成して、ユニット会議時に評価をして次のプランへとつなげている。	2回目以降のアセスメントは担当職員が実施し、計画作成者が計画をたてる。医師や看護師等の役割もあり、チームで支援するプランとなっている。半年ごとにカンファレンスを行い、モニタリングをして次の計画に繋げている。ケース記録は、利用者についてと職員の関わり・考察の欄に分けられており、プラン番号を付して記録され、医療(赤)、家族(青)と色分けし、見やすく区別している。記録方法の統一が難しく、系列グループホームとの勉強会を計画している。ケアマネの勉強会もオンラインで実施予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、ケアプランに基いたケース記録をしている。月1回のユニット会議時や本人の情報を共有して実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いや買い物の付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練を通して消防署の協力を得ている。 地域の消防団にも協力の要請をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらっている。 薬等、状況が変わった時には家族に連絡をして記録をしている。	2ヶ所の医療機関から往診を受け、変化があった時には家族に連絡し、ケース記録に記載している。家族介助で受診する方には、生活状況を書いた文書を渡し、帰りに報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護に訪問してもらい、変化のあった利用者への対応、かかりつけ医に病状の連絡をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は定期的に面会をいたが、コロナ禍の為病院の相談員等に電話で現状の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針と看取りについての説明を行い、同意書を取り交わしている。家族の希望が変わった時や本人の状態が変わった時にはその都度話し合いをしている。 かかりつけ医・訪問看護と連絡を密にしている。	看取りについては契約時に説明。主治医の説明を受けて話し合い、方針を決定している。看取り期には、職員のカンファレンスで個別の状況を説明しているが、職員の不安に対して管理者や代表が指示を出すことで負担軽減を図っている。ほとんどの家族がホームでの看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網等急変時のマニュアルを作成して緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。食料・水などを備蓄して玄関先に保管してすぐに持ち出せるようにしている。	3月の避難訓練では前回より時間が短縮できていたが、利用者の体調等にもよるとのこと。防火自主点検表により、器具の損傷・老化、避難経路の閉鎖障害などを毎日点検し、予防に徹している。備蓄品はリスト化し、発電機は本社に装備している。最近、深夜に停電になった時には発電機の準備要請をしたが、短時間で復旧された。持ち出しグッズも、個別に巾着袋を用意している。前回福祉避難所に避難した際には、管理者より利用者の担当が割り振られたことで、少人数を責任もって誘導でき、良かったと感じている声があった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を大切に、日々の声掛けに務めている。日々のケアの中でも気が付いた時にはお互いに注意しあっている。個人情報保護については具体的に説明を行い同意書もらっている。	声かけについて、利用者心地よく届くような言葉遣いに配慮している。気になる言葉遣いについては、管理者からだけでなく、職員同士でも注意し合える関係作りに努めている。写真掲載について、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から要望があった時にはできるだけ希望に添えるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせて支援するように努めている。他の利用者との兼ね合いで希望に沿わない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者から要望があった時はできるだけ希望に沿うように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3日おきくらいに買い物へ行き、利用者の食べたいものと栄養バランスを考えて一緒に献立を考えたりしている。簡単な調理などは手伝ってもらっている。	旬のものを取り入れ、行事食や月1回のお刺身やパンの提供など、食を楽しめるような工夫がされている。コロナ禍で外食を控えており、牛丼専門店の具を買ってきて牛丼を作った。食後の片づけは男性利用者も積極的に参加している。職員は食事介助をしながら一緒に食事をとっている。食事や調理の様子の写真が掲示され、利用者の満面の笑顔が映し出されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェックしている。ひとり一人の嚙下を把握して提供している。栄養バランスに気を付けて献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後はうがいや歯磨きをするように声掛けをしている。寝る前には入れ歯を洗浄している。定期的に希望者は歯科往診を受けてます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、日中はリハビリパンツでトイレ誘導するようにして排泄の自立を目指している。	おむつ使用の方にも、可能な限りトイレでの排泄を促している。食事の前後などに声かけし、不必要なパット使用とならないよう配慮している。夜間のポータブルトイレも安全に使用できるように介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしている。(ヨーグルト・寒天・オリゴ糖・牛乳)などを食べてもらったりしている。腹部のマッサージや適度な運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	要望に合わせて週2~3回入浴している。毎夕希望者には足湯などもしている。	3日に1回の入浴を基本とし、午前・午後とも対応しているが、2人介助の時には職員の勤務体制に合わせた時間での提供となる。1日に4~5人が入浴しているが、3人ずつにするか検討中。脱衣所にもエアコンが設置され、濡れると暖かくなる浴室の床や、座面が回転するシャワーチェアを取入れ、安全な入浴に配慮している。足湯は希望者には毎日実施。ゆず湯やしょうぶ湯などの季節の湯や入浴剤を使用することもある。足ふきマットは個人のタオルを使い、感染予防に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活スタイルに合わせて眠れるようにしている。居室の温度調節に充分気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に定期的に訪問してもらい薬の説明・残薬管理をもらっている。副作用や疑問はかかりつけ医・訪問看護・薬剤師等に連絡して指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格を理解して個人個人の能力・性格・好みに合わせた楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染予防の為、人のいない公園などに出掛けたり、景色を楽しんでもらうドライブなどに行っている。	人が少ない公園やドライブで、利用者のストレス軽減を図っている。デッキにパラソルを設置してお茶を飲んだり、外気浴を楽しんでいる。敷地内の散歩や玄関スロープを周回、フロアでの体操で運動不足解消を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や希望に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話の取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の温度・湿度に十分気をつけ得ている。季節の花や飾り物をしている。	季節の花を飾っている。熱が出やすい人や寒さに弱い人など個人の特性に配慮して、陽当たりや室温等をこまめに調整している。加湿器、次亜塩素酸空気清浄器を設置し、安心して快適な空間を作っている。ひまわりの貼絵や敬老会や十五夜等のイベント写真、食事風景の写真が飾られている。掃除は職員中心で行い、モップ掛けなどは利用者も行っている。毎食後にうがい薬でうがいをしており、風邪をひく利用者が少なくなったとのこと。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性・ADLに応じて本人にとって居心地の良い場所になるように努めている。 相性が悪い時などは席替えをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、家族の許可をもらい名前を明示している。 また本人使い慣れた家具などを持ってきてもらったりしている。本人の身体状況に合わせた居室づくりをしている。	居室入り口には愛らしいネームプレートがあり、自室と他の方の部屋との区別に一役買っている。クローゼットに家具を収納し、部屋を広く使っている方が多い。テレビやラジカセ。鏡やラックなどが置かれ、写真などを飾り、利用者にとって居心地のよい居室づくりがされている。電気毛布を使用している方には、職員が温度管理に気をつけている。ベランダを改修中で、一時的に柵を作って落下防止している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム遙遙

目標達成計画

作成年月日 : 2021年11月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナウイルスが現在下火になっているが第6波が蔓延する可能性がある	利用者:職員共にコロナウイルスにかからないように巣く	①職員の休みの日感染対策をして外出する ②利用者の外出先には充分気を付ける ③施設内の消毒・換気を継続する ④面会時の感染対策をする ⑤予防接種の施行する(3回目)	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。